参考資料２

第４回データ戦略推進ワーキンググループ検討にあたって

2022 年９月６日
一般社団法人日本経済団体連合会 副会長・サイバーセキュリティ委員長
日本電気株式会社 特別顧問
遠藤 信博

日本のデータ戦略は実行フェーズに入っており、データ戦略にもとづく様々な個別の施策推進のためのご努力に感謝申し上げる。

本 WG にて、今後の日本のデータ戦略の一層の推進について検討されるところ、日本のデータ戦略が「データを価値創造の基盤とする視点」、また、「国力を高める視点」が取り入れられているのか確認することが重要であると考え、以下の点について申し上げる。

I. 価値創造基盤としてのプラットフォーム

- 多種、大量のデータを直接活用しての価値創造は、ICT 活用によりリアルタイム性をもった全体最適ソリューション（＝スマートソリューション）を創る可能性を高め、データは正にそのための価値源泉である。
- 今後の人間社会は、エネルギー、医療等の全体最適型ソリューションを必要とする課題を多く有するため、我が国の積極的なデータプラットフォーム整備は、ひいては国際的な価値創造プレゼンスを高める事となる。
- 「データプラットフォーム＝価値創造基盤」の観点からベクトルが合っているのか確認しながら、日本のデータ戦略推進の骨子を取りまとめていくべきと考える。

II. データのリアルタイム性の確保

- データプラットフォーム整備におけるリアルタイム性とリモート性の確保は重要であるところ、同時にデータドリブンで価値創造をする中でデータ生成のリアルタイム性も重要である。データ生成のリアルタイム性の確保についても確認しながらご議論いただきたい。

III. 国力としてのデータ連携

- デジタル実装を通じた地方活性化が積極的に推進されているところ、各地域に限られる価値創造ではなく、日本全体としての価値創造という観点で一定程度の規模でまとまって基盤づくりをしないと国力強化に結びつかない。
- 日本全体のデータ連携のために、地域同士のデータのインターオペラビリティの確保が重要である。
- 例えば、デジタル田園都市国家構想で整備されるエリアデータスペースと民間主体で整備される産業データスペースの連携（＝分野間データ連携:DATA-EX）の具体的枠組みづくり等に期待する。

IV. DFFT について

- DFFT でデータを流通させていくことも非常に重要であるところ、クロスボーダーでデータ流通することによって高い価値創造ができることを視点に置いて DFFT が整備されるよう議論をしていく必要がある。
- 例えば、医療データは日本の国の中での価値創造ができるかもしれないが、グローバルにデータをクロスすることができれば地球規模での価値創造ができる可能性がある。
- 地球規模での安心・安全、レジリエンス、グローバル医療等、DFFT が価値源泉を生むという観点でご議論いただくことで、来年の G7 サミットにて DFFT がエンカレッジされることを期待する。

V. 国際連携や国際標準における日本のリーダーシップ

- 国際連携や国際標準などデータに関する国際的な対応は色々と進められているところ、価値創造や国力強化の観点で国内一致団結して対応し、来年の G7 サミットに向けてデータ戦略のさらなる強化に取り組むべきである。
- そのためには、日本が標準化のリーダーシップを取ることが重要であり、政府全体での議論が必要であるところ、DFFT 標準化チームを立ち上げることについてご検討いただきたい。

以上